文人協會銃後の赤誠　　お手の物の名文も加へ、前線へ慰問袋[[1]](#footnote-1)

朝人會では國神作間の行事として前將へ問を送ることにし集してゐたが、この八十集つたので廿日第廿へ出した。李光洙會長をはじめ、津田剛、金文輯、李北鳴、李孝石、朴基采、金東煥、金起林、李箕永、宋影氏など、作家、人、畵監、作家として半に知名の内人に數の女もへて各人自自作、そこはお手のものゝ問を同、それぞれとつてきの名で半人の後調ぶりを前に傳へるのである。

【写真】人會の問

1. 1939年11月28日付『京城日報』夕刊 [↑](#footnote-ref-1)